

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103722
法人名	有限会社アイファミリー
事業所名	グループホームファミリー
所在地	愛媛県松山市今在家1-11-12
自己評価作成日	平成22年2月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年3月10日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

リビングでは、昼間皆で歌を歌う、フーセンゲーム、生け花などをし、楽しく過ごされている。食事を出している野菜のほとんどが、ホームの畑で作られた無農薬野菜です。おせち料理やお花見弁当はホーム手作りを楽しみにしている利用者さんも多いです。季節感を大切にしたり、イベントや食事は利用者の食欲増進・元気の源になっていると思います。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所では、予めからのご家族の要望もあり、利用者が最期まで事業所で暮らすことができるよう、24時間対応可能な医療機関との連携や看護師資格を有する職員の配置等をすすめ、看とり支援が行えるような体制を整えられた。現在、半数のご家族が事業所での看取り支援を希望されている。  
ご家族には、毎月、利用者個々に暮らしぶり等をお手紙に写真を添えてお知らせしている。又、運営推進会議のご案内や会議議事録、日々の献立表、季刊の「ファミリー便り」もお届けし、ご意見をうかがっておられる。ご家族から、自宅にいる時に楽しんでいた「趣味の編み物や貼り絵」又、「歌うこと」等を事業所でも続けさせてほしいとの要望があり、それぞれ支援されている。クリスマス会や餅つき会には、ご家族も参加されており、3月末にはご家族も一緒に、マイクロバスで奥道後の「湯桜祭り」に出かけることを予定されていた。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム ファミリー

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)  
氏名 小田原まりこ

評価完了日 22年 2月 20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価)</p> 利用者の自立した生活を支援できるよう、理念のもと、季節感を大切にしながら家庭的で温かみのある生活・介護を心がけ、実践している。 定期的な勉強会開催、必要と思われる研修には積極的に参加する。また、研修で習得したことを他の職員に勉強会で伝え日々のケアの向上に繋がるようにしている。	事業所では、今後さらに利用者が地域とのつながりの中で生活できるよう、「地域密着型サービスの意義を踏まえた理念」を新たに付け加えることを検討されていた。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価)</p> 地域とのかかわりとして季節の行事や催し、運動会への参加など行っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価)</p> 定期的な運営推進会議。地域行事へ積極的な参加。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	定期的な運営推進会議、地域行事へ積極的な参加も行っている。運営推進会議では、市職員の方や民生委員の方のお話で参考になることは即実践している。	
			(外部評価)		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	他の施設の運営推進会議への参加、他施設の見学、取り組みなどを伺い、良い所は取り入れている。	
			(外部評価)		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	身体拘束をしないケアの実践として、施設においての身体拘束マニュアルを作り、身体拘束ゼロへ向けて勉強会などで話し合いをしている。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉の暴力等を含む虐待に関しては職員同士で注意し合い、気をつけている。管理者や統括部長はそのような状況が発生していないか、又、発生しないよう、日常の会話や接し方など日々確認し注意を払っている。また、職員は研修など勉強する機会を設け防止に心がけている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要と思われる方には、市へ相談を行うなど身体障害者手帳や生活保護の申請などを行っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所又は退所時には、統括部長・管理者が十分な説明を行っている。家族等の不安や疑問は、いつでも言ってもらえるような状態であると思う。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者からの意見・苦情・不満などは管理者や統括部長が聞き、早急に検討・対応を心がけている。施設で行われる季節の行事などには案内を出し、参加を促し、また、参加していただくことにより、より施設を理解していただけていると思う。	
			(外部評価) ご家族には、毎月、利用者個々に暮らしぶり等をお手紙に写真を添えてお知らせしている。又、運営推進会議のご案内や会議議事録、日々の献立表、季刊の「ファミリー便り」もお届けし、ご意見をうかがっておられる。ご家族から、自宅にいる時に楽しんでいた「趣味の編み物や貼り絵」又、「歌うこと」等を事業所でも続けさせてほしいとの要望があり、それぞれ支援されている。クリスマス会や餅つき会には、ご家族も参加されており、3月末にはご家族も一緒に、マイクロバスで奥道後の「湯桜祭り」に出かけることを予定されていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)  職員からの意見・苦情・不満などは管理者や統括部長が聞き、早急に検討・対応を心がけている。	
			(外部評価)  事業所の勉強会に全職員が参加できるように毎月、最終週の火・水曜日の2日に分けて行っておられる。職員が当番制でテーマを考え、資料の配布や会議の進行を務めておられる。「感染症」「認知症ケア」「ロコモシンドローム(運動機能低下症候群)」等について話し合い、知識を深めたりケア等について意見交換を行っておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)  介護職員処遇改善交付金を調整手当として支給する。職員の休日希望の考慮、個々の職員の実績による手当てをアップするなどし、職員が働き甲斐のある職場になるよう努力している。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)  非常勤職員も含め、職員が希望する研修は、出勤扱いで出席してもらう。研修費用が必要な場合も会社が負担している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)  包括支援センター等主催の交流会への参加	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)  十分な時間を取り、本人の不安や困っていることに対し納得いくまで聞くようにしている。また、状態の変化に応じ随時対応している。また、他の職員からの声かけで聞き取り漏らしのないようしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談をされた場合には、十分な時間を取っている。求められていることを相談時に十分把握し、理解するよう努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者や家族の要望を聞き、情報も提供しつつ一緒に改善する努力をしている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は利用者の機能に応じてできること（配膳や洗濯物たたみ、畑仕事や花の手入れなど）を見極め、共に協力し互いに支え合えるような援助を心がけている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ほぼ毎月、家族へ利用者の状況報告を写真を添えてお送りしている。利用者の要望をご家族に伝え、利用者が快適に過ごせるよう家族と共に利用者を支えている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人が気兼ねなく訪問でき、心地よく過ごせるようなホームを心がけている。また、馴染みの方との外出も家族と連絡を取りながら本人の希望に添えるよう支援に努めている。 (外部評価) ご家族の来訪時には、ご本人とともに食事やおやつを食べられるように用意されたり、法事や利用者の誕生日等には、ご自宅に外泊される方もある。遠方から訪ねて来てくれたご姉妹に、利用者が得意の絵を添えてお礼状を出す際には、職員が封筒や便箋を用意してサポートをされた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握し、コミュニケーションをとりにくい利用者には、職員が間に立ち、うまく関わりを持てるよう援助している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者本人や家族の想いを受け止め、いつでも立ち寄ってもらえるよう声かけをしている。	
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしや会話の中でさりげなく、本人の意向や家族の希望等を聞き、ケアプランに反映させている。利用者から情報を収集し、その情報を職員間で共有し、日々のケアに繋がるようにしている。利用者の思いを大切に支援していけるよう努めている。 (外部評価) 利用者とお花を生けたり、懐かしい歌を歌う等、職員は、利用者の日々の暮らしを支援する中で、ふと漏らした言葉や体験談等に耳を傾け「個別の記録」や「支援経過記録」「アセスメント要約表」に記録し、職員間で情報を共有して日々のケアにつなげておられる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から聞き取りをし、今までの生活歴の把握、日々の生活で見えてきたこと等を再度聞き取りし理解するよう努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護支援記録を取ることで現状を把握し、利用者の日々のケアの改善に努めている。	



## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画書は、具体的でわかりやすい新しい書式に変更した。また本人や家族から聞き取りを増やし、情報収集に努めた。職員全員でカンファレンスを行い、それを元に介護計画を作成している。	
			(外部評価) 毎月、介護計画に沿った支援が行えているかモニタリングを行い、3ヶ月に1度「介護計画モニタリング表」で評価して計画を見直しておられる。ご家族には、来訪時等の機会を捉え、要望等をお聞きするようにされている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護計画は期間に応じて見直しをしている。利用者に変化があった場合には、状態を把握し、家族や職員などから情報収集をし新たな計画を作成している。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者や家族の状況に応じ、面談や聞き取りを行う等し、その都度柔軟に支援やサービスが改善できていると思う。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員さんには、運営推進会議や地区の催し・サロン等でお世話になっている。消防訓練は、消防署の方を交え定期的に訓練を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価)  利用者や家族の希望により往診や受診を行っている。 夜間や急変時にも24時間協力医との連絡体制が整 い、往診も可能である。	
			(外部評価)  協力医以外の受診にはご家族が同行されており、その 際には事業所でのご本人の様子等について、書面で伝 えるようにされている。2週間に1度、協力医療機関 のかかりつけ医が往診してくれるようになっている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価)  協力医の看護師と連携を取っている。非常勤で看護師 も在籍しているので相談しながら支援をしている。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)  職員がこまめに面会に行き、主治医や病棟の看護師か ら状態を聞いている。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)  重度化した場合における対応に係る指針があり、家族 にも同意を得ている。医療連携体制も整っているが、 今のところ看取りはなし。重度化した場合、利用者や 家族、主治医と相談し、利用者にとっての最善策を考 えるようにしている。また、その情報を職員全員で共 有している。	
			(外部評価)  事業所では、予めからのご家族の要望もあり、利用者 が最期まで事業所で暮らすことができるよう、24時 間対応可能な医療機関との連携や看護師資格を有する 職員の配置等をすすめ、看とり支援が行えるような体 制を整えられた。現在、半数のご家族が事業所での看 取り支援を希望されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の急変時や事故対応マニュアルがあり、全職員理解できている。いざという時にあわてず実践できるよう定期的に勉強会で話し合い、勉強している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的な防火訓練を行い消防署員に講習をしてもらい防火や防災に関する知識を学んでいる。救命講習も職員全員が受講し終了証を持っている。また、災害対策マニュアルを作成し、状況に応じ避難する場所、避難方法、緊急時の連絡先など全職員把握している。 (外部評価) 年2回、消防署の指導のもと防火避難訓練を行い、昨年の9月には夜間想定訓練を実施された。又、年に数回、火災発生場所を変えながら通報や避難誘導等、事業所独自で訓練を行ってられる。運営推進会議時、市の担当者から「地域との協力体制を強化する必要がある」とのアドバイスや民生委員の方からの情報もあり、今後、地域の防災訓練に参加する予定とされていた。事業所は警備会社と契約をされており、緊急時には駆けつけてくれるようになっている。	さらなる利用者、職員の安全と安心のためにも、今後いざという時に、地域の方達とも協力し合えるような体制作りに向けて、取り組みをすすめていかれてほしい。運営推進会議等を通して地域の方達にも働きかけていかれてはどうだろうか。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 家族にも確認を取り、馴染みの呼び名で呼んだり、一人ひとりに合わせた声かけを行っている。記録等の個人情報は厳重に保管している。 (外部評価) 利用者の中には、難解な漢字を漢和辞典で引き、ノートに整理する利用者や毎日廊下を歩いた回数を書き留めてりハビりに励んでおられる方等もあり、利用者の向学心や前向きな姿勢に職員は「人生の先輩として敬い、学ぶことが多い」と話されていた。調査訪問時、職員は、利用者に声をかけて許可を得てから、居室に案内して下さった。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が自己決定できる利用者については、本人の思いや希望に沿ったケアを心がけている。自己決定できない方については家族と相談し支援を考えている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者さん各自のペースでゆったりと時間を過ごしている。一人ひとりがしたいことをして、楽しく過ごす時間が持てている。職員は利用者が孤立することのないよう、見守り声かけをしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 散髪や美容室など、行きたいと希望される方には行ってもらったり、美容室の方に訪問してもらい行っている。ホームでは職員が髪をセットして差し上げるなどおしゃれに気をつけるようにしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ホームの菜園で利用者・職員皆で育てた野菜を皆で収穫し、食材として取り入れ、食事時には育てる楽しみ、食べる楽しみに花を咲かせている。準備や片付けは利用者一人ひとりができること(配膳や下膳など)をできる範囲でしていただいている。 (外部評価) 事業所の農園で季節の野菜を代表者、職員、利用者が一緒に育てておられ、無農薬野菜が食卓に上っている。調査訪問時、職員は、食事が始まる前に昼食の献立を説明し「なますの大根とおひたしの菜の花は、ホームの農園で採れたものです」と紹介された。職員も利用者と一緒にテーブルで同じ食事を食べておられた。昨日退院されたばかりの利用者には、職員が声かけしながらゆっくりと時間をかけて食事できるようサポートされていた。汁物が苦手な方に「お汁の具の野菜はホームの畑のですよ」と声かけされると、「私も山で野菜を作りよったよ」とお汁に口を付けられた。下膳したり、ランチョンマットをたたんでいる方も見られた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食べる量や栄養バランス、水分量のチェック等が必要な利用者には個人のチェック表を作るなどし、毎日記録し栄養や水分不足がないか確認している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、声かけ誘導により口腔ケアを行っている。また、夕食後には義歯をはずしていただくよう声かけし、口腔ケア後、口腔内のチェックをし、汚れや傷がないか毎日確認している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はなるべくおむつを使わないよう気をつけている。また、食前には、排泄を促し、気持ちよく食事が摂れるよう支援している。入所前までは、オムツを使用していた利用者が職員の声かけ早めのトイレ誘導によりオムツを使用しなくなった利用者もいらっしゃる。	
			(外部評価) 食事前後、就寝前後等、利用者個々の排泄パターンや習慣に合わせて支援されている。排泄後は、こまめに清拭、シャワー等で清潔を保てるよう努めておられる。夜間等に、おむつを使用される方については、おむつかぶれを防ぐために体位にも配慮されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日排便チェックをしている。一定の期間排便がない方には主治医の指示に従い、便秘薬を服用していただくなどし改善している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は曜日や時間帯を決めているが、必ずしも絶対ではなく、その方の体の調子に合った入浴時間や入浴方法を心がけている。また、本人の希望に応じ入浴日を変更し入っていただけるよう柔軟に対応している。	
			(外部評価) 利用者個々が週に2～3回、入浴できるよう支援されており、お気に入りのシャンプーやボディークリーム、洗顔料を使っておられる方もいる。入浴を嫌がられていたが、好きな音楽を流すと気持ちよく入浴できるようになった事例もある。車椅子を利用されている方については、足湯をしながらシャワー浴を支援されている。	事業所では、すべての利用者が湯船で温まることができるよう、リフト設置を計画されていたが、構造的なこともあり、むつかしいようである。さらに、利用者の生活の質の向上を目指して、お風呂を楽しんだり、個々がリラックスできるような支援の工夫を重ねていかれてほしい。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その人の前日の睡眠具合や一日のリズムに合った昼寝等、気持ちよく眠れるよう支援している。昼夜逆転し不穏になっている利用者には、昼間にレクなどをし夜ぐっすり眠れるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者各人の薬の管理はホームで行っている。また処方箋は職員がいつでも効能や量など確認できるよう、決めた場所に保管し、利用者の薬が変わった場合には全職員に周知している。現在飲んでいる薬についても利用者各人の薬表を作り、すぐに確認できるようにしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者各人の得意としていること、例えば、男性の利用者では、囲碁、将棋、書道、絵を描くなど、女性は裁縫、洗濯物たたみ・アイロンかけ、野菜の皮をむくなどその方に合わせ楽しめるよう支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者希望による近所のスーパーへの買い物、利用者全員での神社へのお参り、サロン催しへの参加、季節の花が咲く時期のドライブなど行っている。また、本人の希望によるご家族との外出も自由に出かけられるようにしている。 (外部評価) 天気の良い日には散歩や近所の産直市場、スーパーに買い物に出かけられている。囲碁や将棋のお好きな方は、地域の「ふれあいサロン」の集まりに参加されたり、男性利用者のみで近隣の自衛隊の記念行事に出かけ戦車を見学されたこともある。昨年のお花見は、職員手作りのお花見弁当を持って出かけ、重信川の河川敷の桜を満喫された。外出をためられる方には「小鳥も鳴いて、梅も咲きましたよ」「庭のキンカンの実を採りに行きませんか」等と声かけを工夫されている。調査訪問時には、ご家族と一緒に受診に出かけて外食して帰る方もあった。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 近くの無人販売所(果物)での小額での買い物など、小額は自分で管理し買い物できるようにしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望で電話をかけたたり、手紙を書いたりなどやり取りが自由にできるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>季節に合わせた飾り付けや季節の花を飾るなど、季節感が感じられ、心地よく過ごせる空間を作っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者と一緒に生けた雪柳やラッパ水仙等の花が玄関や居間に飾られており、又、7段飾りのお雛様等が飾られていた。壁には囲碁の勝敗表、利用者が詠まれた俳句の短冊、利用者が描かれた有名人やタレントの似顔絵、お習字等も掲示されていた。昼食後は、ソファやお気に入りの椅子に座って、テレビを楽しんでいる方もあった。居室のドアには、入居された季節に咲く花と利用者の名前を印刷して貼ってあり、部屋間違いをされる方には、さらにペーパーフラワー等をドアに飾っておられた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>会話しやすいソファの配置やリビングに花を飾るなどくつろげる空間を心がけている。また、囲碁や将棋ができる場所をつくる、一人で静かに読書ができる空間を設けるなどし、各人が気の合った利用者と一緒に過ごしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居時には本人と家族が相談し、馴染みのある物や家具等を持ってきてもらっている。本人の希望による部屋の模様替えもまめに行っている。また、各部屋室温も確認し、必要に応じエアコンをつけるなどし温度調整している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室には、テレビやカセットデッキ、好きな歌手のCD、裁縫箱や編み物道具、自作の陶芸作品等を置かれ、ご両親やひ孫さんの写真、以前作成された刺繍の作品が飾られていた。毎月「文芸春秋」を購読されている方は、民生委員の方からお借りした十数冊の文庫本を指差して、「1冊読むのに5時間かかる。以前より読むのに時間がかかるようになった」と話してくださいました。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>歩行不安定な方には居室に足の引っかかるものは床に置かない、自分の部屋がわかりにくい方には大きな印を付ける、ゆっくりだが自力でトイレに行ける方には、なるべくトイレに近い場所の居室にするなどして自立した生活が送れるよう工夫している。</p>	